

奥会津だより

第34号

2006年新春



サイのかみひのこがうかぶと冬の空

ま沢 海人くん(三島小)

団子屋

小正月の華やかさを彩る団子さし。色とりどりの団子は、秋の頃より刈り取っておいたミスノキに刺すのが慣わしである。鶴、亀、巾着、宝船なども団子で形作り、数々の縁起物の飾りをつけて居間に飾ると、雪に閉ざされた中でも小正月独特の賑わいが生まれる。

小正月の期間中は、お正月よりも濃く様々な予祝の行事が配置されていて、ふるさとの空気が濃密になるときだ。昔ながらにそばの粉の黒っぽい団子と、米の白い団子とで飾る家もあるが、いずれも「二十日の風には当てるな」という言い伝えにそって、19日には団子を外して、ストープなどでこんがり焼いて食べる。食べ物のなかった時代、固くなった団子も大切な食料だったのだ。



14日の夕刻、中学生までの子どもたちが、害鳥を追い払う画や言葉を書いた鳥追い旗を持って「今日はこの鳥追いだ、長者さまの鳥追いだ、ホヤーホヤー」と呼びながら村中を練り歩く。

鳥追い



団子さしと 道具の年取り

団子さしの準備は12日頃から始まり、さすためのミズキを用意したり、餅粉で団子を作ったり、すべての飾り物が整うのが14日の夕刻となる。このとき、日頃使っている包丁やノコギリなどの道具も丁寧に並べてお膳を捧げ、「道具の年取り」を行う。



餅のごっつお

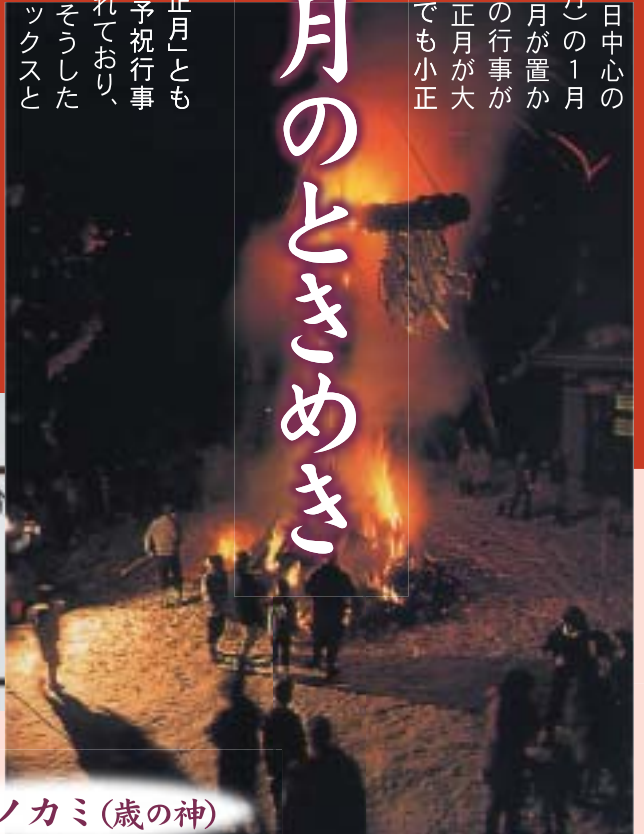
正月にも小正月にも欠かせないごっつお(ごちそう)が餅。搗きたての餅は、餡子、納豆、黄な粉、大根おろし、クルミ、つゆ餅と、豊富なバリエーションで食される。望の正月用の若餅は、13日に搗くところが多い。



小正月のときめき

月は「望の正月」や「女正月」ともいわれて、古くからの予祝行事がたくさんちりばめられており、サイノカミ(歳の神)はそうした一連の行事のクライマックスともいえる。

旧暦(太陰暦)では元日中心の大正月と、望の日(満月)の1月15日を中心とした小正月が置かれ、農村では豊作予祝の行事がたくさん配置された小正月が大切にされてきた。現在でも小正



サイノカミ(歳の神)

15日の夕刻、雪原に屹立したサイノカミのオンベ(御幣)に火が点くと、小正月の賑わいと緊張は最高潮に達する。朝から行われていた数々の神事は、すべてこの瞬間のためにある。集落総出の行事は、一年間の無病息災と集落の安全を約束してくれる重要な神事である。

1月14日の夜、早乙女は青年が女装し、道化役のひょっとこと共に家々を回り、甚句を歌いながら踊る。昭和村、只見町、南郷村などで行われている。



早乙女踊り

奥会津つれづれ

各地が例年になく大寒波に見舞われている。雪には縁遠い鹿兒島県の種子島でも12月としては40年ぶりに降雪を観測したという。

奥会津もここ数年12月は雪が少なく、長靴を履かずにお正月を迎えることがあった。しかしこの冬は12月上旬から雪が降り続いて、既に3m以上になっており、どの家も朝晩除雪作業に追われている。

そんな厄介者の雪も、決して無駄な産物ではなく、これからの季節、かまくらや雪像、冬の夜空を彩る花火など各地で行われる雪まつりや、貯蔵施設「雪室」に利用し、トマトやカスミ草といった花卉・野菜の長期保存、品質管理に役立っている。春には恵みの水となって春には野花を咲かせ、作物を育ててくれる命の水となる。

日本で起きていく大寒波の一方で、地球規模での温暖化が進んでいる今日、地球の平均気温は、今後100年間で過去100年間の6倍近い3.5度の上昇が予想されている。今後ますます温暖化が進めば、世界各地の動植物の生態系が崩壊するといわれている。100年後の未来には、奥会津の冬から雪が消えてしまうかもしれないのだ。

様々な産業の発展に伴う自然環境の悪化が進んだ20世紀から、保全と再生の世紀になって5年。改めて先人達が教え伝えてきた「自然への畏怖の念」について考えさせられる。一面に続く雪景色を前に、奥会津はこれから厳寒の季節を迎える。(治)

奥会津に暮らす ● せむぐり ●

紡ぐ・織る



からむし織の雪ざらし

昭和村に伝わるからむし織は、糸作りが冬の間の重要な作業。原麻を細く裂いて一本ずつ繋いで縫りをかける。更に糊付けしてクルワに巻いた糸は、反物の長さによって機に上げ、写真のように一本ずつソウコウに通してようやく織る準備が整う。約一ヶ月で織り上がった布は、真っ白な雪に一週間ほど晒して整え仕上げる。

曲げる



曲輪

黒檜(ネズコ)を曲げて山桜の皮で締めた曲輪は、檜枝岐村では古くから「ふるいの側」として日光に出荷していた。

軽い、漏れない、冬の山でも中身が凍らないなど、実に合理的な実用品だ。

ワラで編んだ雨用の蓑。雨の中でも蒸れず、体を冷さず、ナイロン製の合羽などに比べて雨除けの機能ははるかに優れている。デザイン的な美しさから、インテリアにも用いられるようになった。



雨蓑



ヤマブドウのバッグ



ヒロロとモワダのバッグ

編む・組む



アケビのかご



雪踏みダワラとワラグツ

ヤマブドウ、ヒロロ、科(モワダ)、マタタビ、アケビ、葛、ワラ。

編む素材は、秋までに野や山で採集して乾燥させておいたもの。有限の素材は、森の循環を知り尽くしていないと採取の時期や生かし繋ぐすべがわからない。実は、編み始めるまでの作業が最も長く困難を極める。



マタタビザル



雪に降り込められる長い時間は、農作業に追いかけることななくも作りに集中できる、豊かな時間でもある。冬の間に作られる道具や小物は、春からの生活に欠かせないものばかりだ。

「歳時記の郷 奥会津フォトコンテスト」入賞作品より

奥会津とっておきの風景

雪の奥会津

*詳しい撮影場所、その他の入賞作品はホームページでご覧いただけます。
《歳時記の郷 奥会津》 <http://www.okuazu-style.com/tdrsk/>



第5回作品 『冬の旅』
撮影者：石田太郎
撮影地：三島町



第8回作品 『雪の里』
撮影者：佐藤美智子
撮影地：金山町



第8回作品 『早春』
撮影者：西方功治
撮影地：只見町

打ち豆と切り昆布の煮物



大豆や青豆を、豆ぶち台で一粒ずつ丁寧にサイツチでつぶした打ち豆は、冬の間の大切なタンパク源だ。戻す時間が短く、汁物にはそのまま使えるほど柔らかく、独特の風味がある。とりわけ煮物には頻りに使われる食材である。どの家庭でも、打ち豆作りは年内に終えることになっているが、これは「今年もママに達者で暮らす」という年頭の希望をつぶしてしまわないようにという、古くからの習わしである。

思い出を一言

おがが、夜になると豆を一升から二升打っていて、大変だなと思った。打った豆は、広げて寒い空気に晒すとカビなくて一年中食べられる。おつゆの時は、打ち豆入れと、ねえこほれっから気を付けんなねえのや。んだけんじよ、うめ〜のや。(本多フミ子さん・金山町)

作り方

- ①切り昆布を水で戻す。
②鍋に油を入れ、赤唐辛子を炒める。
③切り昆布・大根、にんじん・打ち豆を一緒に入れて炒め、柔らかくなったら酒・砂糖・醤油を適量入れて煮る。(大根から水分が出るので、だし汁は入れない)

てわざのものたち 特産品紹介

微細彫り(柳津町)

銀香の厨子に入った七福神。一体の高さは約5ミリ。顔の表情をルーペで覗くと、実に豊かな



な表情が、コンマ1ミリの狂いもなく見事に彫り込まれている。古くから受け継がれてきた微細彫りの技術は、拾い上げたクルミの中に虚空蔵菩薩を認めたことに始まり、400年を経た現在、金坂豊山氏ただ一人が継承し、作品を作り続けている。圓蔵寺を中心に栄えた信仰の里が生んだ伝統的工芸品は、一粒のゴマ、一粒の粉殻にも大きな宇宙を現出させる。クルミに入った大黒、モミガラやゴマの実に入った仏像など、マユミの木を素材にした微細仏は、一体7、350円から。

【問】柳津町観光物産観清流苑
02441(42)2324

1月2月 奥会津イベント情報

伊南 B級公認GS大会
福島県スキー連盟公認のB級公認大会を開催します。たくさんの方の参加をお待ちしています。詳しくは会津高原高畑スキー場のHPをご覧ください。
http://www.office.inafukushima.jp/takahata/
携帯 http://www.takahata-ski.org
日時 平成18年1月22日(日)
受付 午前7時30分から受付
競技 午前10時から競技開始
場所 会津高原高畑スキー場
参加料 大人2,500円 小人2,000円
定員 300名
問合せ 会津高原高畑スキー場
電話 02441(76)2231

柳津 第26回 会津やないづ冬まつり
節分の豆まき、歳の神といった伝統行事や柳津名物「あまなんじゅう」の早食い競争や歌謡ショー、花火大会などイベント盛りだくさんのお祭りです。
日時 平成18年2月4日(土)、5日(日)
4日 午前10時から午後8時まで
5日 午前9時から午後3時まで
場所 道の駅「会津柳津」
問合せ 会津やないづ冬まつり実行委員会
電話 02441(42)2114

只見 第34回 只見ふるさと雪まつり
10日は前夜祭としてアートキャンドルナイトを開催。11日12日は伝統芸能の披露やもちつき大会、スノーモービル体験の他、夜には雪像のライトアップ・花火大会で真冬の夜空が彩られます。また、期間中はフォトコンテストが開催されます。
日時 平成18年2月10日(金)から12日(日)まで
10日 午後7時から午後9時まで
11日 午前9時45分から午後9時まで
12日 午前10時から午後9時まで
場所 只見町只見駅前広場
問合せ 只見ふるさと雪まつり実行委員会
電話 02441(82)5240
ホームページ http://www.tadami.gr.jp/

三島 第34回 雪と火のまつり
伝統行事であるサイの神づくりから火までをメインに、会場では雪中イベントやたいまつ行列が行われます。敵冬の奥会津で燃え盛るサイの神の幻想的な世界をぜひご覧ください。
日時 平成18年2月11日(土)
午前9時から午後8時まで
場所 三島町民運動場
問合せ 三島町観光協会
電話 02441(48)5000
メール mshina@town.mishina.fukushima.jp
ホームページ http://www.town.mishina.fukushima.jp/



金山 第29回 会津かねやま雪まつり
雪像展示や民芸品の展示即売、雪上ゲーム大会や味じま大会など、様々なイベントが行われます。
日時 平成18年2月19日(日)
午前11時から午後5時まで
場所 金山町中川 町民グラウンド
問合せ 金山町観光協会
電話 02441(54)2311

昭和 第23回 からむし織の里雪まつり
からむし織の雪ざらしや織の実演、糸つくり体験の他、だんごさし、豆まきなどのイベントが行われます。
日時 平成18年2月26日(日)
午前10時から午後4時まで
場所 からむし織の里
問合せ 昭和三村商工会内
電話 02441(57)3100

第10回 歳時記の郷奥会津 フォトコンテスト 優秀作品発表展
自然風景・郷土文化部門、只見線&S写真部門の優秀作品を展示します。多数の応募作品から選ばれた力作をぜひご覧下さい。
期間 平成18年2月18日(土)から3月18日(土)予定
場所 大沼郡金山町中川「こぶし館」奥会津「写真・文化の郷」事務局
電話 03(56638)2217

お便り紹介
●初めて奥会津を訪れ、奥会津だよりに出会えました。この一冊で沢山のことが知ることが出来ますね。また奥会津の温かさに触れたいと思います。(宮城県・永井まみさん)
●人間関係が希薄になり、人と人が支え合っていく暮らしが少なくなっているようで、とても寂しく感じます。しかし奥会津には村人の絆の強さや心の交流が深く、人としても大切な部分を気付かせてくれます。(福島県・木村美鈴さん)

方言クイズ クイズに答えてプレゼントを貰おう!
問題：次の方言の意味は何でしょう? 「んだげんじよ」
ヒント：『思い出の一品』の「思い出を一言」に注目
正解者の中から抽選で5名様に、三島町の「わらびたまり漬」をプレゼントいたします。
●応募方法：官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。
●あて先：〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下字中乙田979 奥会津書房 宛
●応募締切：1月31日消印有効
※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。
※クイズの答えは次号35号で発表いたします。